2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330531121	施設実習	黒谷万美子 信太寿理			2	選択	3前期

科目の概要

保育士として10年間の実務経験を活かして、実習準備、指導を行う。
この科目はDP2.3に記載されている保育及び教育現場での課題に対する見識を深め専門的な知識と技術を身につけ社会に貢献する保育士の育成を目指す科目である。保育士資格取得に必要な保育実習は、保育所実習、施設実習、保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）の3 種である。この実習は第３段階の学外本実習である。この実習を通して、児童福祉施設における養育のあり方を学び、保育者の役割と責務の把握を図ることを、目的としている。

学修内容	到達目標
① 児童福祉施設の設置目的や児童(利用者)の現状をつ かみ、施設ごとの特徴を知る。 ② 児童福祉施設における実習全体を通して、児童(利用者)、家庭、地域への理解を深める。 ③ 施設保育士としての職業倫理を身につける。 ④ 児童福祉施設における保育について、新たな課題を 見つけ、今後の学習に生かす。	① 児童福祉施設の目的や特徴を把握し、福祉施設の利 用者の現状について理解できる。 ②　利用者・家庭・地域についての理解を深め具体的な現場での対応ができる。 ③ 福祉施設の保育士の職能や職業倫理について理解 し具体的な現場での活動ができる。 ④ 利用者が抱える問題やニーズについて理解し具体的な現場での活動を通して対処法を考察することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	社会的養護・社会的養護内容等での学びをすべて活かし課題意識を持って取り組む。
	働きかけ力	
	実行力	目標を持って臨み、行動することができる。
考え抜く力	課題発見力	保育の現場をありのまま把握して、自己課題を見つける。
	計画力	
	創造力	保育者の行動を積極的観察し保育技術、知識の習得し実践に活用する。
チームで働く力	発信力	学んだ事を文章で伝えるとともに修得した技術を子どもたちに伝えることができる。
	傾聴力	保育者や子ども、保護者が話しやすい雰囲気を作り、それぞれの目線に合わせ話を受容することができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	決められたルールや約束を守り、課題や記録を遅滞なく提出することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

「保育士をめざす人の福祉施設実習」　愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編集
「朋」　愛知県児童福祉施設長会広報委員会編集

他科目との関連、資格との関連

施設実習は実習領域の中でエクスターン、保育実習Ⅰに続く実習であり、児童家庭福祉、社会福祉、社会的養護、社会的養護内容、発達心理学、障がい児保育などの内容理解が必要である。
資格との関連：保育士

学修上の助言	受講生とのルール
・今までに学んだことや実習で体験したことを振り返りながら、実習に臨む。 ・実習計画書を立案するとともに実習施設の目的・特徴等の概要について理解しておくこと。	・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守する。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受けない学生は、この科目が受験できないことになるので注意する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	① ② ③ ④	
学修成果	平常評価	小テスト	0	① ② ③ ④	
学修成果	平常評価	レポート	0	① ② ③ ④	
学修成果	平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	① ✓ ② ✓ ③ ✓ ④ ✓	【実習】 児童福祉施設から提出される出席簿・実習記録・評価表を参考に提出された施設からの実習評価を基に総合的に評価する。 知識の獲得(児童福祉施設の目的や特徴を把握し、福祉施設の利 用者の現状について理解できる):50% 知識の活用(福祉施設の保育士の職能や職業倫理について理解 し具体的な現場での活動ができる):30% 課題解決(利用者が抱える問題やニーズについて理解し具体的な現場での活動を通して対処法を考察する):20%
学修行動	平常評価	社会人基礎力(学修態度)	10	① ✓ ② ✓ ③ ✓ ④ ✓	（主体性） 課題を取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献や実習担当者のアドバイスを踏まえて、自己学修をすることができる。 （実行力） 一度始めたことは最後までやり切ることができる。 （課題発見力） 思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 （創造力） 物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。 （発信力） 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 （傾聴力） 実習担当者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。 （規律性） 無断欠席・遅刻・早退をせず、やむ得ない場合は実習先と大学に連絡する。 また実習ノートを期限内に提出することができる。
総合評価割合			100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
① 児童福祉施設の目的や特徴を把握し、福祉施設の利用者の現状について理解できる。 ② 利用者・家庭・地域についての理解を深めることができる。 ③ 福祉施設の保育士の職能や職業倫理について理解することができる。 ④ 利用者が抱える問題やニーズについて理解することができる。 ⑤ 福祉施設から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。（評価内容A）それ以上のものをS とする。	① 児童福祉施設の目的や特徴を把握し、福祉施設の利用者の現状について理解できる。 ② 利用者・家庭・地域についての理解を深めることができる。 ③ 福祉施設の保育士の職能や職業倫理について理解することができる。 ④ 利用者が抱える問題やニーズについて理解することができる。 ⑤ 福祉施設から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。（評価内容B）

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	見学・観察実習 児童福祉施設の役割と機 能 ・子どもの様子や施設の1 日の流れを学ぶ	実習	様々な状況に応じた観察を行い、子どもの様子や１日の流れを捉えることができる。また、積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握ができる。	（予習） 施設について学修する （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	観察実習 児童福祉施設の役割と機 能 ・子どもの様子や施設の1 日の流れを学ぶ	実習	様々な状況に応じた観察を行い、子どもの様子や１日の流れを捉えることができる。また、積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握ができる。	（予習） 施設について学修する （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	観察実習 こどもの理解 ・子どもの様子や施設の1 日の流れを学ぶ	実習	様々な状況に応じた観察を行い、子どもの様子や１日の流れを捉えることができる。また、積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握ができる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	観察実習 こどもの理解 ・子どもの様子や施設の1 日の流れを学ぶ	実習	様々な状況に応じた観察を行い、子どもの様子や１日の流れを捉えることができる。また、積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握ができる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	観察実習 こどもの理解 ・子どもの様子や施設の1 日の流れを学ぶ	実習	様々な状況に応じた観察を行い、子どもの様子や１日の流れを捉えることができる。また、積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握ができる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	参加実習 こどもの保育 ・講義や演習で学んだこ と を活かして実践する	実習	施設の理解を深め、それまでに学習し、経験してきた保育知識を実践できる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	参加実習 こどもの保育 ・講義や演習で学んだこ と を活かして実践する	実習	施設の理解を深め、それまでに学習し、経験してきた保育知識を実践できる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	参加実習 こどもの保育 ・講義や演習で学んだこ と を活かして実践する	実習	施設の理解を深め、それまでに学習し、経験してきた保育知識を実践できる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	参加実習 こどもの保育 ・講義や演習で学んだこと を活かして実践する	実習	施設の理解を深め、それまでに学習し、経験してきた保育知識を実践できる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	参加実習 こどもの保育 ・講義や演習で学んだこと を活かして実践する	実習	施設の理解を深め、それまでに学習し、経験してきた保育知識を実践できる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	指導実習 ・実習指導案を作成する ・実習指導者の助言を受ける ・研究保育を行い、評価する	実習	実際に指導案を立て、保育者の指導をあおぎ、その案を検討する。その指導案を、実際の保育に活かすことができる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	指導実習 ・実習指導案を作成する ・実習指導者の助言を受ける ・研究保育を行い、評価する	実習	実際に指導案を立て、保育者の指導をあおぎ、その案を検討する。その指導案を、実際の保育に活かすことができる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	指導実習 ・実習指導案を作成する ・実習指導者の助言を受ける ・研究保育を行い、評価する	実習	実際に指導案を立て、保育者の指導をあおぎ、その案を検討する。その指導案を、実際の保育に活かすことができる。	（予習） 次の活動の準備を行う （復習） その日の活動を振り返り、記録・反省を行い次の準備をすすめる。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	総括 施設実習の振り返りと自己の課題の明確化	実習	実際に保育をした結果について評価を受け、反省をまとめる。自分の体験から学んだことについて考え、自分の課題を明らかにする。	（予習） 実習を振り返り、記録・反省を行う （復習） 実習を振り返り、記録・反省を行う。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	総括 施設実習の振り返りと自己の課題の明確化	実習	実際に保育をした結果について評価を受け、反省をまとめる。自分の体験から学んだことについて考え、自分の課題を明らかにする。	（予習） 実習を振り返り、記録・反省を行う （復習） 実習を振り返り、記録・反省を行う。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力